長崎志

十三十四

和書門 類
二九三八九 號
二一 函
四 架
二 冊

内閣文庫 和書
二九三八九 號
二一 冊
一〇 函
二 架

内閣文庫
番號 和 29389
冊數 21 (7)
函號 175 96

内一一〇五七號

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

第十三卷目録

年表挙要

元亀元庚午年より　月十九辛卯年迄十九年
天正元癸酉年より　月四乙未年迄四年
文禄元壬辰年より　月十九甲寅年迄十九年
慶長元丙申年より　月九癸亥年迄九年
元和元乙卯年より　月三壬申年迄三年
右元亀元年より元和九年迄合五十四年

国立公文書館
National Archives of Japan

長崎志第十三卷

年表拳要一

内一一〇五七號

田邊八右衛門茂啓編撰

元亀元庚午年

義昭公市治世

一今年長崎港ニ南蛮船始テ着船ス去ル天文十二年偶然ニ着岸以後九州諸所ニ往来セリ所向後此地ヲ渡海シ港ニ定度旨頃主大村氏ヲ頼ひ願ひ奉ると雖

第七卷

元亀二辛未年

一 今年も南蛮船著岸ス去年預ケ置ル大村理専許諾有ル三月家来友永對馬を遣シ當表ニ地割を初ル六町出来ス第一巻ニ

元亀三壬申年

一 當表ニ近國ノ商人多往来ス交易を為セリ然ルニ蛮人ハ我國製作ノ珍器或ハ金銀財宝を持来ル或ハ奇異ノ妖御器を呈民ニ与セ自然と己ノ方ニ信伏感心セしめ終ニ懇を深くし巧計を廻らしと云ふ

天正元癸酉年

信長公諸所発向得信利義昭公執奏號昌山

一 蛮人年々渡海し法ノ恩恵施しを徹を家を切支丹ニ法を引ケ神道佛法を排撥し切支丹寺を造立し長崎ノ地を寄附ス人も此を理ル神ニ兼日蛮人仍て蛮人年貢を納ル弥頭を仕掛し船を以ハ理ル弥蛮ノ世地を

寺領に成り候て、剃髪の面地に法名を付け、百年以前迄日形帳に載せ置き候ものの書付七巻、

天正二甲戌年

当頃信長公御前に近年出来候て、当国の長人、法華寺寺内、五郎左衛門法名を付け候ものの行状を、年一年に高き賞とものを連署にて、当寺に法名を付け、安土に地を与え、法名の形に世帯を動かし、市見に作分ゆく法陽坊門通りに地を

縋り南蛮寺を造立せしめらる 付七巻、

天正三乙亥年

一 今年信長公内裏高倉長橋に渡り来り、変人共形多京都に参せ渡南蛮寺に寺領寺住せしめ寺領の事を給わり法花法華を行ひ切支丹宗を弘め年月に成り立教内乃ち法華宗民邪宗多つと傾き行なと如此なる事なく歩り

しと申り 付七巻、

天正四丙子年

信長公任正三位内大臣右大將兼任

天正五丁丑年

天正六戊寅年

信長公任正二位右大臣

天正七己卯年

四月七日　秀忠公御誕生

天正八庚辰年

天正九辛巳年

一　年月を經て漸く法民ハ[illegible]及び[illegible]土[illegible]家
以下地頭代官等に到り[illegible]切支丹[illegible]邪法を信用
[illegible]の[illegible]海浪[illegible]信長公算台乃ち[illegible]惑て
佛法ハ權家より[illegible]謝恩を捧ぐ[illegible]教[illegible]を受る
[illegible]山[illegible]波法ハ權家に対あをなく厚く[illegible]を

[illegible]

天正十年壬午

六月二日於京都明智日向守光秀謀叛信長公信忠公生害四十四日於山崎秀吉公討滅日向守

天正十一癸未年

天正十二甲申年

秀吉公任從三位大納言

天正十三乙酉年

秀吉公任正二位内大臣四年任関白叙從一位改姓豊臣

天正十四丙戌年

家康公任從三位中納言

関白秀吉公任太政大臣

天正十五丁亥年

一今年秀吉公筑紫為征伐九州ニ発向ス十月廿日ニ
筑前博多ニ始テ駐駕ス而長崎ニ移ス其日見
預ケ置ル博多ニ立入ル其ヲ彼去
ル年来南蛮船ヲ求ケ切支丹ノ船ヲ伝
作ノ法道ノ法ヲ故対ノ寺社ヲ破却セリ
此年ニ寺ノ坊ノ法ヲ極ムルヲ為追返
サレ長崎表ヲ為ノ佐渡ヲ与ヘラレ移ル

此制禁ノ額此除目ヲ以テ佐渡住天連ヲ早ク
追放ス旨ニ作出ス（弁一生ニ
ヌケタリ）

天正十六戊子年

一今年重ネテ寺沢志摩守ヲ佐渡ヲ与ヘ而
三千石ニ長崎ヲ料所ニ与ヘ此外北ノ此見浦ノ
此朱印ヲ編ノ此代官ヲ以テ陽ノ船ヲ長
崎ヲ此預ケ置ル是ノ長崎中ノ毎年所人ノ
ヲ以テ出府ノ年ニ此礼ヲ勤ル（弁一生ニ
ヌケタリ）

天正十七己丑年

一 年来京都南蛮寺ゝ物のゝ切支丹ゝ教法を行ふ
ゝ者秀吉公ゝ聞召増田右衛門ゝ仰付四條坊通
南蛮寺破却とゝ軍兵ゝ遣ゝ焼
ゝ者長崎ゝ三ヶ所南蛮寺ハ焼拂
ゝ仰付是より畿内諸国ゝ法ゝ広ゝ
ゝ者厳密ゝ仰出ゝ

天正十八庚寅年

天正十九辛卯年

秀次公任関白秀吉公称太閤

文禄元壬辰年

秀吉公征伐朝鮮国

寺澤志摩守　長崎ゝ奉行始

一 今年秀吉公朝鮮征伐ゝ唐津名護屋ゝ
ゝ在陣ゝ長崎中ゝ市機嫌窺ゝ村山
東安左衛門ゝ尾張ゝ示ゝ長崎

[illegible]

一 此砌より出来を渇りく果り唐國へ出帆渡海出発ス[illegible]以来唐船出帆[illegible]

高麗[illegible]

一 去る元亀二年より今年迄町数二十三町出来ス 但此町数八地子出発[illegible]

文禄二癸巳年

寺澤志摩守

文禄三甲午年

寺澤志摩守

一 京大坂[illegible]捕石垣[illegible]天連宗人[illegible]二十隻[illegible]

文禄四乙未年

秀次公於高野山生害

寺澤志摩守

慶長元丙申年

家康公任内大臣

寺澤志摩守

慶長二丁酉年

秀吉公再代朝鮮國

寺澤志摩守

一 當表遂年繁兵第一住居之形ふとの多く其分四方

ゝ地ゝ所割取初ゝ年我本所豊所酒屋所出来し

此後年ゝ所数之為ゝ地の限を定ゝ内ゝ

云 此日以後ゝ所数と云所と稱ス第一也

慶長三戊戌年

八月十八日秀吉公薨贈豊國大明神

寺澤志摩守

一 浄土宗悟真寺建

但是迄邪宗門ゝとのとゝ當表ゝ神社佛寺一宇も

破ゝ砕却ゝ中ゝ初ゝ年初ゝ寺宇創ゝ

慶長四己亥年

寺澤志摩守

慶長九甲子年

九月関ヶ原市陣得勝利謀叛逆徒等

寺澤志摩守

一 当年小川町より新屋町へ堀通へ川筋出来し又
川地町より古町へ川筋出来し内町より町へ堀抜る
一 因幡屋敷今年横町へ移 [illegible]
一 今年泉州堺浦へ河岸新敷拵 [illegible]

慶長六辛丑年

寺澤志摩守

慶長七壬寅年

寺澤志摩守

慶長八癸卯年

家康公征夷大將軍

秀頼公任内大臣 [illegible]

小笠原一菴

一 今年初て日舟役五人百姓より出る 其後町役と [illegible]

慶長九甲辰年

七月十五日 家光公御誕生

小笠原一菴

一 一向宗正覚寺建

慶長十七己丑年

秀忠公任征夷大将軍

小笠原一庵

一 今年如何なる事有馬陸奥守殿 松一渡廣南 [illegible]

[illegible] 御免ゝ而 [illegible]
渡ゝ [illegible] 変ゝ [illegible]
[illegible] 数害ゝ [illegible]
[illegible] 算 [illegible]
[illegible] 世 [illegible]
[illegible]

一 [illegible] 東八月見 [illegible] 南八田上 [illegible] 西
[illegible] 村 [illegible] 地 [illegible]
[illegible] 日 [illegible] 大村 [illegible]
代地 [illegible] 南之方 [illegible] 西番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長谷川左兵衛

慶長十一丙午年

長谷川左兵衛

慶長十二丁未年

長谷川左兵衛

一 修験成福院天満宮社を創建し

慶長十三戊申年

長谷川左兵衛

一 今年阿蘇港へ変船長崎港へ来船仕候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ありける所に東北の追風ありけれハ帆を引揚て海上遥に
走り出けり隆佐右衛門早速兵船を出し追掛しに
大船の順風を得て其日暮に及ひけれハ一丁追付
難き所なく来りけれハ程なく西南の風に
吹替り蛮船沖の方より湊の方に吹寄せ吹
戻されけれハ焼草を用意し兵船を浮ひ来て焼草を積せり
船中用心堅しく火矢鉄砲を放ちて防けれハ
頼み遊ひけるを攻あくみ終に有馬氏焼草に火
海へ飛入ける所に程なく地を見れハ燃出し小船焼
草を多く積み蛮船に数艘付けり後に

之漕寄せ数艘にて蛮船を焼討けれハ蛮船ハ燃付て防かたき
方術も尽きて一船悉く焼亡し蛮人共残らす溺死
せし隆佐右衛門も是より深く帆を離して海底に沈めり
或説に蛮船既に危されしに隆佐右衛門自ら鉄砲を
蛮船に乗移り蛮人共と戦ひ討取りけるに船中殆
乱れし隙に焔硝に火掛け火移りて一船忽ち
破裂し船中のもの残らす焼死せり隆佐右衛門ハ
船具に取付て味方の船に飛移り危き命を
逃れ帰りけると云々評に曰船中用心細く火矢
鉄砲を備へ蛮船に乗移り 八

[illegible]

一　今年平戸新屋敷番岸七ツ[illegible]

慶長十四己酉年

長谷川左兵衛

慶長十五庚戌年

長谷川左兵衛

慶長十六辛亥年

長谷川左兵衛

慶長十七壬子年

長谷川左兵衛

慶長十八癸丑年

長谷川左兵衛

慶長十九甲寅年

長谷川左兵衛

一 今年西宮[illegible]国[illegible]
[illegible]天連[illegible]
送り来り阿媽港流刑[illegible] 仰付[illegible]

一 同年山口駿河守[illegible]建置し
切支丹寺十ヶ所近国大名家[illegible] 仰付[illegible]
等悉く破壊[illegible]焼捨[illegible] 仰付[illegible]

一 一向宗大光寺建

一 日宗光永寺建

元和元乙卯年

四月十七日 家康公薨御諡號 東照大權現

長谷川權六

一 禪宗皓臺寺建

一 向宗深山宗寺建

一 修驗大賢坊建 後年本覚寺と改

元和二丙辰年

四月十七日家康公薨御諡号東照大権現

長谷川権六

一 今年長崎出代官村山東安事次平蔵と争論ニ
付江戸ニ而ハ東安斬罪ニ被成上東安新罪ニ付其弘
出代官事次平蔵ニ仰付候事

一 日本長崎表ニ張紙を立て唐紙異国ニ
取渡ス事ハ仰付候事ハ依願
御免被成

一 日本長崎表ニ朱印を立て唐紙を買取る但朱印を
少変ス一切他方ニ商買不致様ニ依願
御免有

一 真言宗延命寺建

元和三丁巳年

長谷川権六

一 今年紅毛船仙天連を乗ス唐船を引連れ
来る出家繋ニ一船ニ付重科ニ行ハル

一 浄土宗大音寺建

元和四戊午年

長谷川権六

元和五己未年

長谷川権六

一 今年町使役四人ヨ増

元和六庚申年

長谷川権六

一 法華宗本蓮寺建

一 唐寺興福寺建

元和七辛酉年

長谷川権六

一 浄土宗法泉寺建

元和八壬戌年

長谷川権六

国立公文書館
National Archives of Japan

元和九癸亥年

家光公征夷大將軍

長谷川權六

一 真言宗清水寺

一 浄土宗 三宝寺

右元亀元年より元和九年迄 五十四年

第十四巻目録

年表挙要二

寛永元甲子年より 同二十癸未年迄二十年

正保元甲申年より 同四丁亥年迄四年

慶安元戊子年より 同四辛卯年迄四年

承應元壬辰年より 同三甲午年迄三年

明暦元乙未年より 同三丁酉年迄三年

萬治元戊戌年より 同三庚子年迄三年

寛文元辛丑年より 同十二壬子年迄十二年

延宝元癸丑年より 同八庚申年迄八年

天和元辛酉年より　同三癸亥年迄三年

右寛永元年より天和三年迄合六十年

長崎志第十四巻

年表挙要二

田邊八右衛門茂啓編輯

寛永元甲子年　二月晦日改元

長谷川権六

一　當年金重院湏而之神社再興之儀支配所長谷川氏則江府ゟ言上あるへき旨ニ而仰渡之（第四巻ニ委り）

一　浄土宗浄安寺建

一　修驗常樂院建　後年改神宮寺

寛永二乙丑年

長谷川権六

一 去年金重院神社再興成就達
上聞ニ及ぶ所不知ニ社地を帰ル刈三社を
口数ニ結ぶ但此地後年天満宮ニ遷座
あり奉り松ノ木と称する地なり 并ニ屋敷
なり

寛永三丙寅年

水野河内守

一 水野氏今博多町ニ在セし天満神を
ふるく土地を清め宮居を造営ありし大根陸印文
とつたふるものニ社蔵を而ものしむ 弁四巻
一 今年切支丹誅ス 屬宅根三百枚ニ掛ル
一 天台宗現應寺建
一 浄土宗聖徳寺建
一 一向宗観善寺建
一 真言宗體性寺建

寛永四丁卯年

水野河内守

一唐國陳明德と云ふもの渡り来り日本住居を願ひ
度旨　御免有り此度を頴川入徳と改め醫業を
勤む

寛永五戊辰年

水野河内守
一今年濱田氏兄弟嘉藤と渡り紅毛人を生捕り
来る　弥十郎
一唐寺　福濟寺建

寛永六己巳年

行中采女正
一唐寺崇福寺建

寛永七庚午年

行中采女正
一大坂にて邪宗門之乞食七十人長崎に送り来る呂
宋へ流刑　仰付　弥七郎
一禅宗春徳寺建

寛永八辛未年

竹中宗女ニ

一 今年引地町東ニ町供屋浦九郎 散使屋浦
二刹建

一 法華宗長徳寺建

一 浄土宗龍淵寺建

寛永九壬申年

正月廿四日 秀忠公薨御諡號 台徳院殿

竹中宗女ニ

一 諏方社 金重院父子上京ニ而 御吉田門前ニ御宿
金重院宮司ニ成 宮内少輔 神主ニ成 神四卷ニ

一 一向宗西勝寺建

寛永十癸酉年

曽我又左衛門

今村傳四郎

一 今年より市奉行市女ニ成り 其ゝ市屋敷を
二ツニ分る 今村氏方より出火 ゝ御屋敷ニ

焼亡 （弁二巻ニ記ス）

寛永十一甲戌年

榊原飛騨守 号我氏智

神尾内記 今村氏智

一 今年より諸方社寺神主御旅所神幸

其外寺参礼首尾有之御供（弁四巻ニ記ス）

一 南蛮人始て当港へ来今年より出島門築始

（弁七巻ニ記ス）

一 真言宗萬福寺建

一 社僧室泉坊建

寛永十二乙亥年

榊原飛騨守

伊石大和守 神尾氏智

一 向後唐船長崎港一方ニ渡海し他ニ往来ス

一 切出島ニ名を付候（弁一巻ニ記ス）

一 次支丹宗門ニ対する所国ニ云

伝教之為所ニ寺を建て住寺切支丹

始る（弁七巻ニ記ス）

但はこの年日本漂流船数艘長崎に着
次第書とゝり十四丁五年 唐船入津
一 今年町使四人出府
寛永十三丙子年
神原飛弾守
馬場右衛門 仙石氏留
唐船
一 向後日本より異国渡海一切堅禁 仰出
切支丹門制禁其外数ヶ条之趣 仰渡

第一巻
一 今年より唐船長崎入津
一 出島阿蘭陀商館如例年南蛮人
渡来之事 第七巻
一 南蛮人長崎より出帆 種子島男女二百八十七人
阿蘭陀港へ流刑 仰付 第七巻
一 元慶長十三年番徳島の海へ焼討
南蛮船に積乗る銀弐万貫目程海底へ
沈長崎へ奴運 京都へ水晶 二年を以て

而掲げ頼る通　所見に分かるる方例多く
依頼に器を以限言貫目俵取掲げ物の而毎
年備に出来出来取掲げ制止なり

寛永十四丁丑年

神原飛弾守
馬場三郎左衛門

十月十五日有馬長門守島原城に陣
長崎奉行
永原帆以後十月上旬帰府有り物の而毎年十月
長崎奉行天草切支丹に関する村原の物と

一揆籠城より事言頃を松倉氏八
十年前の為に出来を制止なれども
中に及ひ切支丹宗門の為と
大切なる隠密なる故に
人数を差向まき天草
国境に出陣に相成られ江府
より沙汰に接とに付て
松倉内匠頭右衛門十二月初有馬
豊後守細川藤孝黒田長政立花宗茂
決議為　上意一揆為退治差遣

仰せ蒙り候て名軍勢を仕て手馬喜多
多の内より長藤中書も左京の亮一家
上京出り長藤に見出て首馬喜多出陣し柳原氏ハ
陽面に加り馬場氏ハ細川に加くらる弁七巻
唐松

一今年祇園社石大鳥居建立月十九日石工始り
八月始終ハ但立石恵町より人夫二万人出る
一薩摩より南蛮船一艘伊天連立入日本人三人
送り来る弁七巻
一去年更高く次左衛尉村岡村より捕て彼深七巻前

一十二月浮原陣所より入用ニて 但信玄被帰
二被長尚より被問て法地法原陣所古屋
一一向宗光源寺建

寛永十五戊寅年

柳原義弾正　　南蛮表弾手薬城後於江府出後後　仰見
馬場三郎左衛門　　右り所り落城後也　長藤左衛
廿年より以後長藤常出左衛と被引年より力出諸
以二十人云　仰付
唐松

一 当年より出奉行所出張仕候ハ町人ハ内より年
行事を以 仰付 嘉兵衛 内野助兵衛
一 四月重く 上使松平伊豆守 戸田左門 原ノ城江
参り候ハ水野氏 二月廿七日廿八日 原
一 揆籠城中男女三千七百人 石火矢打掛られ
大砲四挺 十五日 監物 首長崎 ニ晒され
出島門前ニ梟首ハ 第七巻
一 大矢より原ニ書状を陣ニ用ル 使者長崎ニ
相渡ス 出張有限より 押出 限る百十貫六百九十
三匁 小目録左之通

一 唐船造ル 松四艘 長崎より原ノ城ニ おくる
一 石火矢 鉄砲 修復
一 玉薬
一 楯板
一 笹縄 藁細引
一 大工
一 鍛冶
一 兎御箸
右之八月限三十三貫九百九十目
一 長崎地下人之内 石火矢打ル者江 銀下賞

銀百枚　　渡田新蔵

同　五十枚　　六郎十郎殿

同　三十枚　　源右衛門殿

同　引　　薬師寺久兵

同　五十枚　　与傳之者

同　五百枚　　口引

一　長崎出口番之者百人　扶持米六十一石八斗

四拾五人

但去五十二月六日より番寅三月四日迄去渡

一　清水一揆逆徒之儀相手取申者共之儀清水

又右衛門野無矢惣中之内出番所に建籠り第二巻に

一　去る廿日南蛮人切高砂内に乗り如之年去る

備中国西毛郡内あり内後中蛮人日本海一切

御制禁之切支丹宗門之儀　去る廿日南蛮人

捕られ江戸迄返班時出船の儀に付巻

一　当二月廿八日高原之儀に付柳原氏八右衛門

出江戸　御免関門に　仰付る程に赦免に付

作り馬場氏八郎兵衛に後長崎来者之ち

直ち長崎常住之命上成

寛永十六己卯年

馬場三郎左衛門　　戌年

大河内善兵衛　　柳原氏書

一　今年修験者覚院勢州長官に願ひ当地内に伊勢大神宮御祈禱所を建　第四巻

一　薩方社二ツ居本〻建

一　当港内に御用船二艘ツ犯後当京天草より　第二巻

差出し旨云来　仰付

一　今年南蛮船三艘ツ〻仰付　上使井上筑後守

当年渡海為禁止云〻

押て大船作り出し　作事所出来迄八

云〻先〻当年帰帆一艘渡海仕間敷旨相

〻云作船〻且又長崎市中〻出千七百石

利亜人〻種子出千人蛮国〻云大船〻　第七巻

寛永十七庚辰年

大河内氏書

柘植平右衛門

馬場三郎左衛門

唐船

一 五月十七日南蛮船大船入津ス　上使加賀元民部丞補
當年長崎ニ来ル蛮人ハ元祈羅千内　十二人　助命
ヲ以テ帰国船ハ元禄洪水ニ焼失ス　弁七巻ニ
一 薩摩より仲天連五人切支丹ニ日本人二人送来
一 紅毛船白波長崎湊ニ入船ス　元禄　弁八巻ニ
一 修験金剛院建

寛永十八辛巳年

八月三日　家綱公御誕生

馬場三郎左衛門　年
柘植平右衛門

紅毛船九艘入津
唐船

一 當年松平右衛門佐蒙　上意西海石町西出番所
元建ル　弁二巻ニ
一 紅毛船當年より出ス長崎湊ニ入津ス　弁九巻ニ
一 真言宗真福寺建
一 修験聖壽院建

一日南光寺建

寛永十九壬午年

柘植平右衛門　　戌年

馬場三郎左衛門

紅毛船五艘入津

唐船

一当年陽鳴信濃守様　上京西浦戸町古市番所

筑前へ滞年ニ而お帰京　御ゆるし

一今年市中強奪ニ付ゆるし被仰付九山町

寺合町出来ス　第三巻ニ

寛永二十癸未年

馬場三郎左衛門　　戌年

山崎権八郎　　柘植氏留

紅毛船五艘入津

唐船

一筑前ゆり南蛮人十人送来ル　第七巻ニ

一奥州南部信濃守様ゆり乞人十人江戸へ送ル

柘植氏甲必丸ニ乗合真田丹人江戸へ帰留ル

仰付八人八甲必丹連れ帰る 第八巻に

一 真云宗願成寺建

正保元甲申年　　十二月十六日改元

山清権八郎　　戌年

馬場三郎左衛

紅毛船八艘入津

唐船

一 左様に唐人切支丹宗門に出十二人内三人目明しに

云 仰付三人八獄中にて死し七人八刑罪に 第七巻に

一 真云宗聖立寺建

一 禅宗禅林寺建

一 日宗徳苑寺建

○ 当年明朝亡び清朝建国號世祖召位改元順治

正保二乙酉年

馬場三郎左衛

戌年

山清権八郎

紅毛船七艘入津

唐船

一 熱田社二ノ鳥居今年石ゟ建ル

一 天台宗安禅寺建

一 真言宗青光寺建

正保三丙戌年

正月八日 綱吉公御誕生

山崎權八郎 歳年

馬場三郎左衛門

紅毛船五艘入津

唐船

一 寛永十六年 伊勢大神宮御祈禱所仮御宮建 宮ゝ而今年伊勢町川端ニ所ゝ

而為地ヲ寄所ゝ七月所始め十月遷宮如

奉ラ 除四卷ゝ

正月三 一 今年豊氏社亟筑後町山ノ岩糸村ゝ地ゝ八幡

大神宮ゝ社ヲ勸請ス日前

一 禅宗永昌寺建

一 日宗高林寺建

一 日宗光雲寺建

正保四丁亥年

馬場三郎左衛門　　武年

山崎權八郎

紅毛船四艘入津

唐船

一　當年西国山々地を領方様ゟ高附ゟ十月ゟ
造営致候ハ、（第四巻）

一　同年　聖堂創建ゟ向井元升ゟ附属ゟ
（第四巻）

一　六月廿四日南蛮船二艘肥前ゟ
出ル　西国大変

法令ゟ軍勢を船ゟ
国々ゟ出府御知を
ゟ来ル船者ゟ
来ル　ゟ法令ゟ通知ゟ
渡海為禁止ゟ
（第七巻）

一　此後西国法令十四ヶ条ゟ
（第二巻）

一　寺澤兵庫殿切腹　元和年
元建ゟ　（第二巻）

南蛮ゟ

一　[illegible]宗能仁寺建

慶安元戊子年

山門構八所　　戌年

馬場三所九重

紅毛船六艘ノ渡

唐船二十艘ノ渡

一　[illegible]社仏殿出来八月晋松[illegible]今[illegible]玉宝山[illegible]

地[illegible]伝遷宮[illegible]又[illegible]　神宮寺[illegible]寺跡[illegible]

所免[illegible]　弁四巻ニ

一　当年甲必丹出府[illegible]唐船[illegible]

[illegible]　弁八巻ニ

一　西仏町西伝寺所[illegible]　南蛮寺ト申[illegible]

解屋[illegible]

大天竺用軍器[illegible]野[illegible]　弁二巻ニ

一　[illegible]宗[illegible]福寺建

一　昔年[illegible]　[illegible]寺所[illegible]寺ト小比良ト

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]地八[illegible]寺[illegible]

慶安二乙丑年

馬場三郎左衛門　　歳年

山崎權八郎

紅毛船七艘入津

唐船五十九艘入津

一　公儀御奉行者大野弥五兵衛永井勘兵衛宮表幸
大工町小業治郎左衛門と申者ゟ御尋ねに付
右御(よみカ)入り申候ハ京都ゟ長崎へ

慶安三庚寅年

山崎權八郎

馬場三郎左衛門　　歳年　十月十七日　於長崎卒

紅毛船七艘入津

唐船七十艘入津

一　巡見　上使村木民部留松左衛門

一　甲必丹ヒヤ孔右衛門ハ市兵衛と申ハ
ゟ紅毛おらんだ商人ゟ市兵衛と申者ハ
船渡来ゟ又一所ニ市兵衛と申者ハ
十月十七日山崎氏卒去宮表春徳寺葬送法名昌切

玄忠居士と號ス

一 十一月九日より諏方社宮殿所始り 弁四巻ニ

慶安四辛卯年

四月廿日 家光公薨御諡號 大猷院殿

家綱公任征夷大將軍

馬場三郎右衛門 戌年

黒川与兵衛 山崎氏智

紅毛船八艘入津

唐船四十艘入津

一 八月十日諏方社宮殿成就 巳遷宮有之 弁四巻

一 修験泉良院建

九月十八日改元

兼應元辰年

黒川与兵衛 戌年

甲斐文庄右衛門 馬場氏智

紅毛船九艘入津

唐船五十艘入津

一 今年浜江刑部炉粕町 地内ニ水神社建 弁四巻

兼應二癸巳年

甲斐庄喜兵衛　　戌年

黒川与兵衛

紅毛船五艘入津

唐船五十六艘入津

一　今年松浦肥前守蒙
仰薬有之　弁二巻

上意潮目ゟ七ヶ所ニ石火矢蔵

一　七月十七日稲佐ゟ〻　摺煙草　唐船一艘焼失

一　香焼島ゟ海ゟ〻焼付〻南蛮船沈ル　寛永

十三年ニ限ル　ゟ〻　摺ル　寛永　年

ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻

ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻

ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻

ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻

ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻

ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻　ゟ〻

一　禅宗雲龍寺建

兼應三甲午年

黒川与兵衛　　戌年

紅毛船四艘 入津

唐船四十艘 入津

一 七月四日唐船より清元和尚渡海 侍僧二十人ばかり
ならに萬福寺に住居すべきよし 寄五巻ニ

明暦元乙未年 四月廿三日改元

甲寅文庫年表

武年

黒川与兵衛

紅毛船四艘 入津 但入津延引ニ付依願九月廿四日出帆

唐船四十九艘 入津

一 上意に依て今年物数宇治郡に黄檗山萬福寺開創ありて去年渡海して清元和尚を住職ありて侍僧
三拾人八洲に登山す 去年帰唐す 寄五巻ニ

一 去年より南番迄唐船数出帆ありて船数帰唐人とも場所にて競渡を為せり 寄中しるす
唐人とも場所にて競渡を為せり 寄中しるす
もと元和年くパイロニ船と唱へ少船数をもって
櫂を指して出入元後年乗を競ひ船数を為す

明暦二丙申年

黒川より送状

異国船来津

紅毛船八艘入津

唐船七十七艘渡津

一 四月十二日

上様御疱瘡御快気御祝儀として諸方社へ御参

内能有之 弁四巻

一 十月十七日堅田より金札船来津 弁十二巻

一 今年天満宮社松葉ゝ地ゝ所遷座有之 弁四巻

明暦三丁酉年

異国船来津

黒川より送状

紅毛船九艘渡津

唐船卒艘渡津

一 書籍利生寺とゝのゝ古村所ゝ仏法再一投有之 有

作人ゝ出り 弁七巻

萬治元戊戌年　　七月廿八日改元

黒川与兵衛
黒沢左兵衛

紅毛船十艘ノ屋
唐船四十三艘ノ屋

一　六月廿四日高麗國使者船一艘ノ屋ス
　　舟十二艘ニ
　　乗ル

一　修験大行院建　坂本ニ改大行寺

萬治二己亥年

甲斐左兵衛
黒川与兵衛

紅毛船八艘ノ屋
唐船六十艘ノ屋

一　杉浦天満宮神殿黒川氏寄附ニテ造営成就ス
　　九月廿五日ニ遷宮　舟四艘ニ
　　乗ル

一　遠見番人新ニ十人召抱ル　十石寺村海ヲ長ク十町
　　出来ル　舟三艘ニ
　　乗ル

一　今年高麗米穀御廩ニ積置ル　内ニ黒豆

一 諸国虫害所より出米高ニ付[illegible]

[illegible]

一 米二万石余 [illegible]

一 日二万石余 [illegible]

一 日 [illegible] 門 [illegible]

日 [illegible]

米[illegible]合一万七百十二石余 [illegible]

米[illegible]七万中[illegible]

[illegible]

萬治三 庚子年

黒川[illegible]

寿永表裏

甲斐元氏哲

紅毛船五艘入津

唐船四十五艘入津

一 紅毛人[illegible]書年迄四年[illegible]度[illegible]焼

寿永五年[illegible]月中長崎[illegible]迄二月中[illegible]

[illegible]

寿永表裏

寛文元辛丑年

四月廿五日改元

黒川与左衛

紅毛船十一艘 内

唐船三十九艘 入津

一 今年より江戸洋渡し申候事甲必丹三月十四日出船之

一 以後定例之ゟ

一 薩摩より唐人二十人送来る但洋中より紅毛へ

より海賊と唱へ弁九卷

一 羽軍様御疱瘡御快気御祝儀として興町奉行

中より踊り仕之法式

一 今年東新之節とゝのゝ小島村より白二八幡大明神

社建ゝ勝曙

寛文二癸寅年

四月廿五日 家宣公御誕生

黒川与左衛 歳年

富田久左衛 妻赤氏留

紅毛船八艘 入津

内四番船修復之分九月廿五日出帆

唐船四十二艘 入津

一今年當春疫病大ニ流行シ候ニ付多ク嬰児夭折ス依テ
一ノ瀬街道ニ侍ニ石塔ヲ築立十体位ニ仕候法華
経塔一基ヲ立石塔長七尺方二尺四寸の内高サ七尺唐
僧鼎那尚倡文有リ黄檗ニ化林碧崖曇瑞ノ筆
筆書ス日年七月十五日建長寺惠明お道ニ弟子
墨ヲ無縁塔ト称ス

○當年清聖祖即位改元康熙

寛文三癸卯年

落田久左衛門　　歳年　十月十六日歳ヲ

黒川与兵衛　　十月朔日歳

知毛郡六艘ノ津

唐船二十ノ艘ノ津

一今年三月八日筑後町梅ノ惠寺ト云フ寺ノ後ノ
形ハ多ク迫ノ如ク高サ七ツ家ニ少ヲ掛ケ
月ニ寄ス打合ヲ引キ大風ニ吹ク仕方ニ焼ケ手引ク
其ノ唐中翌ノ巳ノ刻ニ静ル去ル此ノ内浦ヲ始め
惠明町ノ内五十七町ハ焼亡ス所ハ津ノ浦武町並ニ
焼残ノ寺往ノ内三十三ヶ所ノ類焼ス
五十七町寺間ニ寺一百二十四所三十四間ノ

寸続六所本間、巾一十三間半十二間半

家数一万九百十軒万数三万七百十二間半

是迄町幅右同様後道割を定

通り筋町幅四間　組町口三間　海幅壱尺五寸

一　世話限二付貫目十七年賦ニ借請　仰付候一人

口五十人町乙名壱人　六月出産　大坂出船

出張請取　七月蔵百姓　八月西口蔵所破蔵

有之

限ル貫目　内町中

但壱間口弐百九十目三匁三毛宛

内ル貫目　ル町中

但上ノ町　壱間口百二十匁九分四厘九毛宛

中ノ町　内九十匁九分四厘七毛宛

下ノ町　内七十三匁一分三厘三毛宛

内二百三十二貫九百目　寺社三十三ヶ所

一　去寅永十七年　西浦ニ　スヾしく　海ニて　焼沈ル

南蛮ぶし限　乗組ル　取揚　御免ニ付

仕掛ル　方御　ヲ以　限　六十貫目　宿　ル分　全ク異ル

取揚ル　石火矢四挺　取揚ル

出張ル　ヲ　乗師　ヲ　ル中　一方ニ

寛文四甲辰年

黒川与兵衛　戌年十月九日長崎

浦田久右衛門　九月十八日長

紅毛船八艘入津

唐船三十八艘入津

寛文五乙巳年

浦田久右衛門　酉年九月廿八日長崎

稲生七郎左衛門　黒川氏智七月廿九日長

此時ニ唐船三十八艘ノ内

紅毛船十二艘入津

唐船三十六艘入津

一　九月廿四日紅毛之長船出船　孫九郎

一　今年時ニ帰出来ル　八月十二日唐船ノ内二艘掃部所

落船ス　外三艘

一　八月朔日出現ス　長サ十間許ノ人来リ申ス　四月ヨリ

戌ノ月ヲ

一　今年四月朱舜水ト云フ唐人　浅酔清水戸ニ到ル

（外十艘、ノ内）

寛文六丙午年

稲生七俵蒔

但支配領後ゟ三百十二日ニ成六百八日飢府

下黄粮三千俵

稲生民皆六百ニ成十月七日ニ成

松平甚三郎

但稲生民　辛ニ成ル天草郡ニ石田治部少輔長束大蔵大輔ハ大名ニ成ル　月分

ニ成ル到ニ成ル下ニ成民ハ大名ニ成ル

去年有ル所ハ然ル長束大蔵大輔ハ成ル　作ル

有ル所民多体ニ成ル　日年　六月　松平甚三郎

皆作ル行ル　仰付ル有ル下ニ成民ハ出羽庄内

一

河野権右衛門

一　八月廿三日ニ成ル

紅毛船七艘六津

唐船三十七艘乃津

一　二月十七日稲生民辛ニ成ル浅草寺葬送法名幸山

浄忠大居士號ス

一　当年ゟ惣所順書ヲ立宿町附町始ル　十巻ニ

一　去年鋳造ル時ニ鋳掛破ル故当六月鋳直ス　第三巻ニ

一　八月十三日ニ当ゟ配人ハ人医ゟ来ル　第九巻ニ

寛文七丁未年

河野権太郎
松平甚三郎

戌年十月十四日発駕
九月朝日出

紅毛船八艘入津
唐船三十三艘入津

一巡見　上使長野孫之丞井戸新太郎　青山宮内少輔七月
十四日発日十七日発駕

一御料所巡見使高林五郎兵衛　内藤八郎兵衛七月十二日発
日十七日発足

一今年新人有之朝鮮ニ日本ニ武具諸品を売
渡ものの長崎ニ出張二十八人新渡ル

一

一倉田次郎兵衛ものの長崎地内ニ埋極を以て法所
用水を引き運医者伝預ニ成ル年ニ極作始ル

寛文八戊申年

戌年十月二日発駕

松平甚三郎
河野権太郎

九月十二日出

紅毛船九艘入津
唐船四十三艘入津

一

一對馬ニ紅毛人七人送来ル　九月

寛文九酉年

河野權蔵　　戌年九月廿日出奉

松平嘉三郎

紅毛船五艘入津

唐船三十八艘入津

一　当年ゝゝ用料日見村小笠村高木村子地村大浜村

横瀬村此之六村出代官未次平兵衛支配　仰付

一　瑞法寺初紙地絵書書度申板に彫付之出用

ゝ而摺ゝ高木屋今年唐用傳形ゝ瑞法

二十枚出来ス　雑七巻ニ

一　上高ゝゝ当年ゝゝ唐船造ゝ此船新ニ

仰付造ゝ　仰付当年十二月船カワラ葺ゝ始ル

寛文十庚戌年

松平嘉三郎　　戌年九月廿六日出奉

河野權蔵　　九月十四日出

紅毛船六艘入津

唐船三十六艘入津

一　去年造ゝ此ゝ唐船造ゝ此船去艘但五百石積

當三月成敗之儀如何哉否事聚之儀　御身三百六十人
長崎港ヨリ船ニ四月十日ニ乗組
一　六月西南ノ方洋中ニテ破船セリ　蘭人十七人
逗留ノ儀ニ付上申國ニ帰帆ス

寛文十一辛亥年

戌年

河野權右衛門
牛込忠左衛門

松平氏智

紅毛船七艘入津
唐船三十船入津

牛込忠左衛門
河野孫九郎

寛文十二壬子年

戌年

河野氏智　八月廿九日出

紅毛船七艘入津
唐船四十三艘入津

一　三月二日　夜戌上刻より亥下刻迄東方に火柱建
一　當年ゟ不動堂き町ゟ　赤穂屋甚　十四町ゟ名
おゐ　七十七町と　和泉屋市神ゟ市供町　一ヶ年
十一町ゟ　七年ゟ　おゐ

一 今年船賃十七人彩色[illegible]拾[illegible]

延宝元癸丑年　九月廿一日改元

是野孫九郎　　戌年九月廿六日[illegible]

牛込忠左衛門　　九月十四日[illegible]

今年東国[illegible]を立て引移今迄彩色造営有り

[illegible]

紅毛船六艘入津

唐船二十艘入津

一 是迄手形頂戴[illegible]内[illegible]所自後町乙名

[illegible]内より[illegible]　横合町乙名　陳三郎右衛門　横浜町乙名　横浜九左衛門

一 五月廿五日卯ケ刻ス船一艘入津ス[illegible]

一 今年[illegible]上畠地に移[illegible]

一 去る寛文七年倉田茶伝頼水樋作る加能[illegible]

今年より此迄[illegible]十枚[illegible]

延宝二甲寅年

牛込忠左衛門　　戌年九月廿三日[illegible]

是野孫九郎　　九月十七日着

紅毛船二艘入津

唐船二十二艘 [illegible]

一 去年唐船を立山地に引移され候所
地を船数十七人渡候浦に [illegible] 仰付 [illegible] 三巻に

延宝三乙卯年

武年九月廿三日 [illegible]

長野孫九郎
牛也忠左衛門

九月十七日 [illegible]

紅毛船四艘入津

唐船二十九艘 [illegible]

今年江戸にはかく唐船 [illegible] 市蔵

[illegible] 寄名 [illegible] 仰付 [illegible] 月 [illegible]
[illegible] 日 [illegible] 出船 [illegible] 日二十日
[illegible] 出船より珍奇 [illegible] 本名
[illegible]

一 今年船数 [illegible] 用米 [illegible] 出来 [illegible] 船書 [illegible]
[illegible] 仰付 [illegible] 第三巻に
[illegible]

但 [illegible] 享保十二年 [illegible] 引移

延宝四丙辰年

年之忠集

吳野 孫九郎

紳年九月廿日出帆

九月十五日出

紅毛船壱艘 一

唐船二十四艘 一

一 去年来候年寄共書簡ニ船之儀ニ付之書簡ニ

唐國ニ長崎ニ而長崎ニ船陸出帆之事

ニ候共去年ニ日本ニ参候年ニ

一艘ニ付ニ船ニ付年寄共ニ会ニ相渡ニ

寄書ニ云 波紅二艘唐ニ指ク日本ニ渡ル力船

無吳ニ唐ニ渡ル候 白物之年寄ニ

中候又去年ニ当年十八日ニ於年寄共佐口出頭ニ者地

廻ニ者ニ長崎ニ平戸ニ而ニ船ニ八里四京素藩四

九州ニ長人数百人ニ而ニ清国ニ乗ニ小ニ船ニ八

大村ニ領ニ而ニ長崎ニ八百人ニ乗ニ退ク

年ニ乗ニ者ニ藩ニ候ニ藩ニ長崎ニ

流罪ニ云 仰付ニ長崎ニ

一 今年来候年寄共ニ

ニ者ニ出張ニ所年寄ニ内ニ者人加ニ云 仰付

一 今年所住二人来候

仰付

延宝五丁巳年

弟野孫九郎　　御年九月廿三日被召

牛込忠左衛門　　九月十日死

一　御取黄檗山寺寺内聖福寺建　　知行高二十九艘ノ扶

一　俊験金蔵院建　　唐船二十六艘ノ扶

延宝六戊午年

牛込忠左衛門　　御年九月廿一日被召

弟野孫九郎　　七月十六日死

知行高三艘ノ扶

唐船二十六艘ノ扶

一　七月十七日ノ浦町出火有リ西ノ方ノ内類焼ス

二番ノ方ノ孫ノ方安禅寺ニ引移　第二巻

延宝七己未年

弟野孫九郎　　御年九月廿三日被召

牛込忠左衛門　　九月十四日着

紀元和四壡屏
唐和三十三壡屏

一 禅宗妙相寺建

延宝八庚申年

十月八日 家綱公薨御諡號嚴有院殿

牛込忠蔭
川口源左蔭

翌年九月廿九日葬
同氏習八月廿九日葬

紀元和四壡屏
唐和二十九壡屏

一 當年豊後町内ニ地形を修築ス此ニ礼場ヲ
門移ス 第三巻ニ

一 六月十八日日向飫肥伊東出雲守方より異国人十人
乗来ル 第十二巻ニ

一 今年十居寺村海辺長浦頭ニ大村ヲ以テ塩ニ築地
出来 梅ノ浦ニ為ス 第三巻ニ

一 神濤社建

天和元辛酉年

九月廿九日改元

綱吉公任征夷大將軍

川口源左衛門

宮城監物

戌年春廿六日貸申

牛皮五百枚

紙船四艘入津

唐船九艘入津

一巡見上使奥田帝左衛門 戸川左兵衛 第四七月

七月廿日出日十一日帰船

一今年唐宅限二百枚都合 書付ニ

近年去渡来数之内ニ去年唐船入津

数ハ不法ニ限ル 内 原船ハ

九百余ハ

一福済寺長崎和尚 正月十七日より寺中ニ初ル施

粥行ル日ニ付ク元三ヶ人 後ハ了時 合 七ヶ所

より法寺ニ茶菓 法ヲ

施粥有ル 相済ル

一崇福寺千歳和尚 九月十五日より 於寺中粥施ル

一八月晦日申刻 二所牛 長ク方より 坤ク 海 ヲ

惜ミ 一角 立ル

宮城監物

天和二壬戌年

戌年九月廿六日貸申

川口源左衛門

九月十五日出

船毛船四艘入津

唐船二十六艘入津

一 去秋より年々長崎に渡来仏像寺福寺建

施餓鬼ニ付唐人参詣大勢一ツ出来入船有之

送物有り 弁十一冊

一 二月十九日申刻大雷鳴ニ付六七分ハ寺社迄

一 七月末より彗星出現ス

天和三 癸亥年

文人庫

川口源左衛門

宮城監物

戌年 十月九日出

九月十四日出

船毛船二艘入津

唐船二十七艘入津

一 二月出船ニ付白浜町人常ヲ出居 作五郎

一 八月熊野神宮寺寺號を願出 是より以後

唯一神社と称ス 弁四冊

右寛永元年より天和三年迄共六十年

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan